

接合部性能試験成績証

東京都港区海岸1-11-1
ニューピア竹芝ノースタワー17階
ハウスプラス確認検査株式会社
代表取締役社長 吉田 正司

試験結果は以下のとおりであることを証明する。
令和元年8月8日

1. 接合金物名称	クリ20コーナー(枠材30mm対応) K20W30
2. 試験依頼者	株式会社 栗山百造 〒955-0096 新潟県三条市井戸場84-9
3. 目的	当該接合金物を用いた接合部の短期基準接合耐力(引張)を評価する。
4. 試験内容	柱頭柱脚接合部及び横架材端部接合部を想定した中柱型引張試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は、ハウスプラス確認検査株式会社制定「木造建築構造試験事業における接合部性能試験業務方法書(平成21年4月1日制定)」による。
5. 試験体仕様	<p>1) 接合金物</p> <p>「クリ20コーナー K20」1個 材 質: SGHC(JIS G 3302^{*1}) 寸 法: (外形)55mm×65mm×150mm 板厚t=4.5mm 接合具用孔 7-φ7.4mm(柱側) 接合具用孔 4-φ7.4mm(横架材側) 表面処理: Z27(JIS G 3302^{*1})</p> <p>2) 接合具</p> <p>柱側^{*2}: 「クリスパイラルビス 7×65」7本 材 質: SWRCH22A(JIS G 3507-1^{*3})相当材として以下の化学成分を満たすもの C(0.18~0.23%), Si(0.10%以下), Mn(0.70~1.00%), P(0.030%以下), S(0.035%以下), Al(0.020%以上) 寸 法: φ7mm(最小断面径φ4.8mm) L=65mm 頭部径φ11mm 先端形状は、とがり先とする。 表面処理: ダクロタイズド</p> <p>横架材側: 「クリ六角頭ビス 7×120」4本 材 質: SAE 1022^{*4} SWRCH22A(JIS G 3507-1^{*3})相当材として以下の化学成分を満たすもの^{*5} C(0.18~0.23%), Mn(0.70~1.00%), P(0.030%以下), S(0.050%以上) 寸 法: φ7mm(最小断面径φ5mm) L=120mm 頭部径φ11mm 先端形状は、とがり先とする。 表面処理: ラスパート処理</p> <p>3) 軸組材料</p> <p>柱材^{*2}: 105mm×105mm×700mm スギ 製材無等級 含水率: 13.5~15.0% 全乾密度: 0.37~0.42g/cm³</p> <p>横架材: 105mm×105mm×1,000mm スギ 製材無等級 含水率: 13.5~14.5% 全乾密度: 0.36~0.43g/cm³</p> <p>たて枠: 105mm×700mm 厚さ30mm スギ 製材無等級 含水率: 12.0~13.0% 全乾密度: 0.33~0.37g/cm³</p> <p>よこ枠: 75mm×105mm 厚さ30mm スギ 製材無等級 含水率: 12.0~13.0% 全乾密度: 0.33~0.38g/cm³</p> <p>4) その他</p> <p>柱とたて枠の接合: 鉄丸くぎN75 17本</p> <p><small>*1 JIS G 3302 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 *2 試験体は柱頭柱脚部を想定しているが、横架材端部の接合で用いる場合は、柱材を横架材として読み替える。 *3 JIS G 3507-1 冷間圧造用炭素鋼-第1部:線材 *4 SAE Internationalが定める規格 *5 試験ではSAE 1022を使用した</small></p>
6. 試験条件等	試験体の固定は、柱芯から横架材両木口の接合金物側は200mm、非金物側は400mmの位置にM12ボルト・ナットと角座金W9.0×80を用いて鉄骨架台に緊結した。(締付トルク管理値:50N・m) また、横架材にズレが生じないように固定用治具を設けた。
7. 試験結果	短期基準接合耐力 20.1 kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜第二試験所: 神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-1 10番
9. 試験実施日	令和元年6月21日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 上杉 義則 宇山 善博